

強化プラスチック

JEC2008特集

REINFORCED PLASTICS



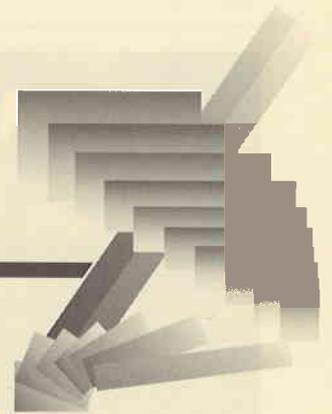
VOL.54 NO.8 2008

8

強化プラスチック 8

第54巻 第8号

REINFORCED PLASTICS VOL.54 NO.8 2008



目次

JEC2008 特集

JEC2008に参加して	邊 吾一	321
【JECの概要】 ——JEC戦略の精髓を極め—— 「日本FRP市場再生のカギ」を探る	野間口兼政	323
JEC2008表彰製品の紹介	佐藤 令佳, 佐久間靖浩	339
自動車フォーラム	松本 隆之	344
土木・建築 (CONSTRUCTION & BUILDING) フォーラムの紹介	小野 紀孝	346
FORUM一覧	情報・編集委員会	348
JEC2008印象記	藤田 幸子	351
SAMPE講演体験記	辻村 豊	353
SAMPE講演一覧	情報・編集委員会	356
FRPカフェ 「複合材料関連の国内インターネットサイトの紹介 (その1)」 —研究開発報告書サイト—	鷓沢 潔	355
JRPSカレンダー		338
JRPSニュース		366
お知らせ・その他		350, 365
海外FRP情報セミナー 開催ご案内		目次前
JEC アジア2008視察ツアー募集のご案内		目次前
「年金特別便」に関する協力依頼について		352

— JEC2008特集 —

SAMPE講演体験記

辻村 豊*

今回、JECと同時開催の学会であるSEICO 08 (SAMPE EUROPE 29th International Conference and Forum) で発表する機会を得た。講演を自ら行ったことは、学会のみならず、JEC会場での活動にも非常にプラスとなり、有意義な時を過ごすことができた。以下は全くもって、非常につたない私見ではあるが、今回の体験をご紹介しますので、少しでも今後の参考となれば幸甚である。

今回は「The composite consisting of in-situ polymerized thermoplastic epoxy resin and fibers (現場重合型熱可塑性エポキシ樹脂複合材料)」の題で発表した。講演の申し込みは、特別なフォーム等はなく、題目、発表者名、所属と連絡先、100語程度の概要を英語で書いて、SAMPEの事務局に直接メール (sebo@sampe-europe.org) を送るだけであった。送信してすぐに申し込み受付の返信が届き、「事務局で内容を吟味してエントリーするかどうかを決める」と書かれていた。もっとも、後になって感じたところでは、実際に落選することはほとんどないのではないかと思う。約1ヶ月後、確かにエントリーの通知が来た。ただし、ここで注意しないといけないのは、「エントリーの通知を確認した」というメールを、こちらから送信しなければならないことである。でないと、せっかくエントリーしたのに落選したことになるからである。また、エントリーの通知自体が来ない場合もあり、実際弊社で申し込んだ別の1件は通知が来なかった。事務局に確認したところ、送信ミス (送信忘れ?) が発生していた。

その後講演プログラムが公開され、事務局からも宿泊施設の案内が届いた。しかしながら、今回は強化プラスチック協会主催のJEC視察ツアーに参加することにしていたので、宿泊施設を探すことは考えなかつ

た。ところが、ここで大きな問題が発生した。JEC視察ツアーは3月31日出発であった。だが、公開されたプログラムでは自分の講演は現地時間で3月31日17:00ごろとなっていた。何と学会はJECより一日早く開催される日程だったのである。JEC視察ツアーでは到底間に合わない。そこで、JEC視察ツアーを一日長い特別バージョンにしてもらえるかどうかを担当旅行会社に相談したところ、空港からは自力でホテルに行くことと、宿泊費などの追加料金を上乘せすることで一件落着した。それにしても次回からは学会の日程も考慮したツアーをお願いしたい次第である。

こうして学会発表にはエントリーされたが、提出物が待っていた。2月の半ばに自己紹介文と予稿を提出しなければならない。自己紹介文は、講演の時に司会者が使うもので、所属や経歴を書き込むだけの簡単なものであった。問題は予稿であり、最大の難関である。発表内容を英文4ページ程度にまとめなければならない。フォーマットや記入例はメールで送られてくるので、それらを参考にして、もし過去のSAMPEの予稿集が入手できるのであれば、分野の近いものを参考にするのが良いだろう。いずれにしても、中身は自力で作らなければならない。もっとも、今回は偶然にも過去に似たような文章が所属部署内にあり、それを流用することにした。元の文章を作成した同僚にひたすら感謝するばかりである。

SEICO 08は国際学会ゆえ当然のことながら講演も英語で行う。英語が危ない小生にとって、非常に不安である。そこで、発表用のスライドを早目に作っておき、直前の1週間は毎朝1時間早く起床して自宅で一人パソコンに向かいながら練習を敢行した。スライドは過去のプレゼンテーション用資料を英文化したものであるが、キーワードを並べるだけの場合も多く、予稿に比べればかなり簡単にできた。しかしながら、実際練習を始めてみると、詰まったり、言い忘れたり

*ナガセケムテックス(株)

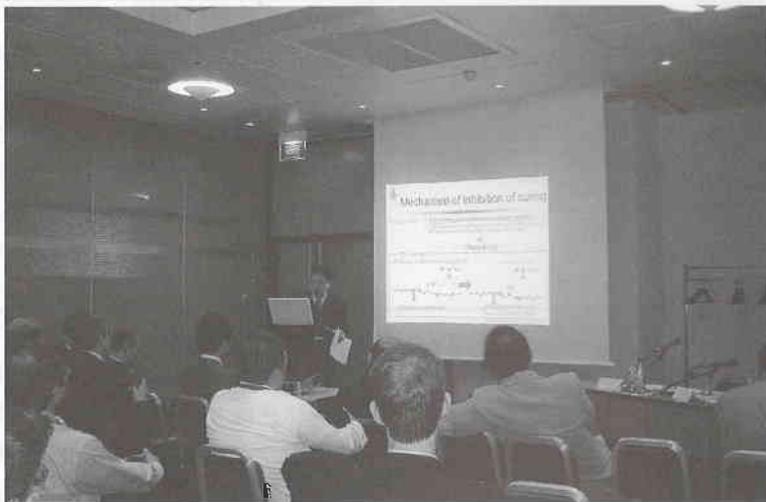


写真1 会場風景

することが頻発した。そこで、図の中に吹出しなどのツールを使って語句を書き込むことにしたところ、かなり効果があった。

さて、講演に使うスライドの投影はパソコンから液晶プロジェクターを通して行う、最も一般的な方法であった。パソコンも現地で用意してくれるとのこと、メモリースティックなどを持参すれば良かった。しかしである。現地のパソコンを使用するとなれば、海外ゆえ文字化けの危険もあり得る。そこで、メモリースティック以外に、ノートパソコンも持参することにした。結果的に軽度の文字化けは発生したが、大勢には影響なく、現地のパソコンで十分であった。

そして、いよいよ3月31日の講演当日がやって来た。会場近くの地下鉄駅を上がれば、すぐに翌4月1日から開催されるJECの会場が目にとまった。ところが、学会会場(Hotel MERCURE Oaris Porte de Versaille Expo)はどこかさっぱりわからない。とりあえず目の前にMERCUREというホテル(おそらく会場と同じホテルチェーン)があったので、中に入りフロントで行き方を教えてもらった。その後1キロぐらいは歩いたのだろうか? ようやくそれらしいホテルがあった。ところが、どこにも学会の案内板がない!ここでもフロントで聞いて、ようやく会場に辿り着くことができた。このように、かなり不案内であったにもかかわらず、会場は参加者であふれていた。

自分の番が回ってくる前にいくつかの講演を聞いて

た。学術的な内容もあったが、むしろ宣伝の場としての色彩が濃かったように思う。JECとの共催を考えれば至極当然なことであり、実際、発表者の多くがJECにも出展していて、是非とも出展会場に来るよとのことであった。そして、いよいよ自分の番が回ってきた。幸い直前1週間の練習の甲斐は十分発揮され、途中で止まることもなく、何とか無事に発表を終えた。

さて、学会にエントリーしていると、JECにも入場できる。学会発表をしたことはJEC会場でも非常に役に立ったことを是非とも強調したい。JEC会場では、様々な情報収集するのは当然のことながら、逆に小生のテーマ「熱可塑性エポキシ樹脂」に少しでも関心を持ってくれそうなブースを直撃・PRしながら回ることにした。ここでも1週間の練習の甲斐があった。発表に使った図入りの原稿を見てもらいながら、何とか英語でうまく説明できたと思う。そんな中で、「この話はSAMPEで発表した」と言うと、多くのブースで、非常に良い応答が返って来た。おそらく、欧米ではSAMPEの知名度および評価が、想像以上に高いのであろう。

以上が、SAMPE講演体験記である。最後に余談であるが、JECの会場へは地下鉄が便利だが、郊外電車(RER)をJavel駅からBd Victor駅まで1駅乗り、そこから路面電車を乗り継いで行く事もできる。小生も1回試してみたが、風情があって非常に良かった。